

# 令和2年度セクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について（概要）



令和3年5月18日

千葉県教育庁教育振興部教職員課  
043-223-4036

令和2年度に実施した、公立学校の児童生徒及び職員を対象としたセクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果がまとまりましたので、その概要を報告します。

この調査は、各学校が、学校におけるセクハラ及び体罰に関する実態を把握し、効果的に防止策を講じ、よりよい学校環境をつくるために実施しているものです。

## 1 調査方法等

### (1) 調査対象

千葉市立学校及び市立高等学校を除くすべての公立学校に在籍する児童生徒478,666人及び職員41,515人

### (2) 調査対象期間

令和2年4月1日（水）から回答日まで

### (3) 実施期間

令和2年12月7日（月）から令和3年1月29日（金）まで

### (4) 実施方法

#### ア 児童生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

#### イ 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

## 2 調査結果の概要

### (1) セクハラ実態調査の結果について

#### ア 児童生徒

セクハラと感じて不快であったと回答した児童生徒の人数

年度	令和2年度			令和元年度		
	回答者数	セクハラと感じ不快であったと回答した人数	児童生徒100人当たりの人数	回答者数	セクハラと感じ不快であったと回答した人数	児童生徒100人当たりの人数
県立高等学校	86,590	224	0.26	89,549	209	0.23
特別支援学校	5,665	18	0.32	5,379	7	0.13
中学校	114,723	153	0.13	115,654	276	0.24
小学校	248,685	148	0.06	248,896	96	0.04
合計	455,663	543	0.12	459,478	588	0.13

※ 令和元年度と比較してほぼ変化はなく、100人当たり0.12人であった。実数で見ると、令和元年度の588人から543人に45人減少している。

※ 主な回答は、「不必要に身体に触られ、不快であった。」「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」というものであり、ここ数年変わりが無い。

## セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であったと回答した児童生徒の人数

年度	令和2年度			令和元年度		
	児童生徒 回答者数	セクハラ以外の ハラスメントを受 け不快であった と回答した人数	児童生徒 100人当たり の人数	回答者数	セクハラ以外の ハラスメントを受 け不快であった と回答した人数	児童生徒 100人当たり の人数
県立高等学校	86,590	162	0.19	89,549	274	0.31
特別支援学校	5,665	23	0.41	5,379	26	0.48
中学校	114,723	104	0.09	115,654	253	0.22
小学校	248,685	1,321	0.53	248,896	778	0.31
合計	455,663	1,610	0.35	459,478	1,331	0.29

※ 100人当たり0.35人であった。回答の多くは、「性格や能力を否定されるようなものの言い方をされた。」「先生が大声で怒鳴ったり、乱暴な言葉を発したりする。」等といった教員の発言や対応等によるものであった。

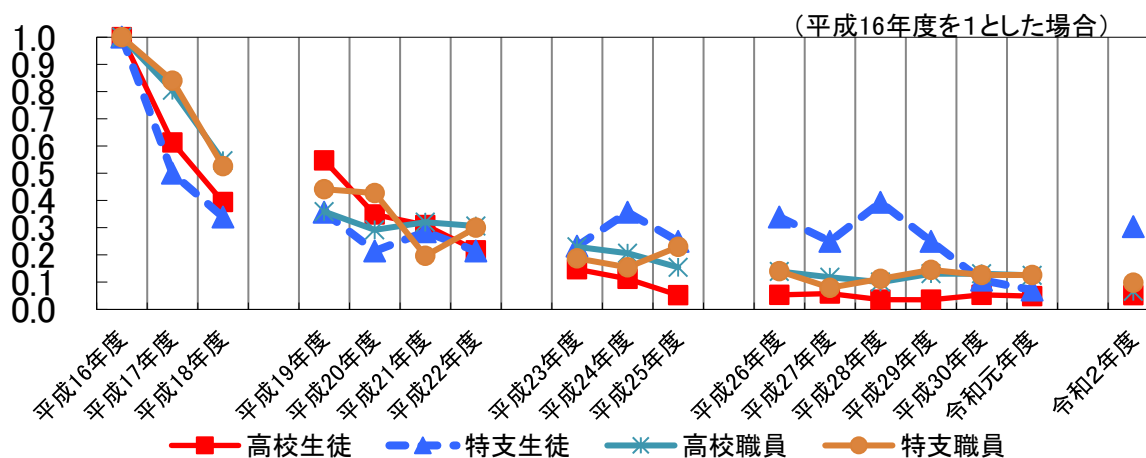
※ 調査結果を踏まえ児童生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、教諭によるわいせつ案件が1件確認され、厳正に処分を行った。

### イ 職員

県立高等学校、特別支援学校では、55人の職員がセクハラであると感じたと回答した。令和元年度の91人と比較すると36人減少している。

セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）

### 被害者数の増減率



### (2) 体罰実態調査の結果について

アンケート調査の結果、体罰の報告はなかった。

- ・高等学校生徒 0件 ( 1件)
- ・特別支援学校児童生徒 0件 ( 0件)
- ・小学校児童 0件 ( 0件)
- ・中学校生徒 0件 ( 0件)

※ ( ) 内は令和元年度

### 3 今後の対策

セクハラ及び体罰の根絶に向けて、引き続き、セクハラ防止に向けたパンフレットやリーフレットを活用し、教職員及び児童生徒への啓発を図るとともに、教職員に対し、不祥事防止対策有識者会議の委員を講師とした研修動画を活用するなど、参加型の研修を行うこと等により、教職員一人一人の倫理観の高揚を図る。また、児童生徒の人権意識の高揚も図っていく。

# 令和2年度セクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について【データ編】

## 調査方法等について

### 1 調査対象

すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童生徒及び職員（千葉市立学校及び市立高等学校を除く。）を対象とし、児童生徒においては、「学校生活アンケート」として実施。

※ ただし、産休、育児休業、休職、療養休暇中の職員は除く。特別支援学校の児童生徒については、家庭に持ち帰る等の対応による調査を行った。

※ 体罰調査は、職員には実施していない。

※ 義務教育学校の人数は、当該小中学校に含めて集計を行った。

※ 調査対象期間は、令和2年4月1日（水）から回答日までである。

<回答者数>公立学校児童生徒数合計：455,663名

高等学校生徒	86,590名	特別支援学校児童生徒	5,665名
小学校児童	248,685名	中学校生徒	114,723名

県立学校職員数合計：11,293名

高等学校職員	7,296名	特別支援学校職員	3,959名
中学校職員	38名		

市町村立学校職員数合計：28,353名

小学校職員	18,363名	中学校職員	9,747名
特別支援学校職員	243名		

<調査学校数>学校数合計：1,128校

市町村立小学校	653校	市町村立中学校	311校
市町村立義務教育学校	2校	市町村立特別支援学校	2校
県立中学校	2校	県立高等学校	122校
県立特別支援学校	36校		

### 2 実施期間

令和2年12月7日（月）から令和3年1月29日（金）まで

### 3 実施方法

#### (1) 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

#### (2) 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

### 4 男女別在籍者数及び回答者数

#### (1) 児童生徒（回答日現在の数値）

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和2年度	男子	44,876	43,307	96.5%	4,213	3,833	91.0%
	女子	44,853	43,283	96.5%	2,030	1,832	90.2%
	合計	89,729	86,590	96.5%	6,243	5,665	90.7%
令和元年度	男子	46,482	44,620	96.0%	4,018	3,634	90.4%
	女子	46,751	44,929	96.1%	1,953	1,745	89.3%
	合計	93,233	89,549	96.0%	5,971	5,379	90.1%
児童生徒		小学校			中学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和2年度	男子	133,293	126,984	95.3%	63,017	58,828	93.4%
	女子	126,440	121,701	96.3%	59,944	55,895	93.2%
	合計	259,733	248,685	95.7%	122,961	114,723	93.3%
令和元年度	男子	134,940	126,626	93.8%	63,562	59,253	93.2%
	女子	127,072	122,270	96.2%	60,169	56,401	93.7%
	合計	262,012	248,896	95.0%	123,731	115,654	93.5%

(2) 教職員

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
令和2年度	男性	5,020	4,878	97.2%	1,602	1,502	93.8%
	女性	2,546	2,418	95.0%	2,645	2,457	92.9%
	合計	7,566	7,296	96.4%	4,247	3,959	93.2%
令和元年度	男性	5,352	5,165	96.5%	1,585	1,538	97.0%
	女性	2,579	2,437	94.5%	2,547	2,418	94.9%
	合計	7,931	7,602	95.9%	4,132	3,956	95.7%
職員		県立中学校					
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%			
令和2年度	男性	23	23	100%			
	女性	15	15	100%			
	合計	38	38	100%			
令和元年度	男性	26	26	100%			
	女性	12	12	100%			
	合計	38	38	100%			

※ 小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

**セクハラ実態調査の集計結果について**

1 児童生徒編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

年度		令和2年度			令和元年度		
児童生徒	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%
高等学校 (県立)	男子	43,307	57	0.13%	44,620	47	0.11%
	女子	43,283	167	0.39%	44,929	162	0.36%
	計	86,590	224	0.26%	89,549	209	0.23%
特別 支援学校 (県立, 市立)	男子	3,833	11	0.29%	3,634	2	0.06%
	女子	1,832	7	0.38%	1,745	5	0.29%
	計	5,665	18	0.32%	5,379	7	0.13%
中学校 (県立, 市町 村立)	男子	58,828	35	0.06%	59,253	103	0.17%
	女子	55,895	118	0.21%	56,401	173	0.31%
	計	114,723	153	0.13%	115,654	276	0.24%
小学校 (市町村立)	男子	126,984	65	0.05%	126,626	42	0.03%
	女子	121,701	83	0.07%	122,270	54	0.04%
	計	248,685	148	0.06%	248,896	96	0.04%
合計		455,663	543	0.12%	459,478	588	0.13%

※ セクハラと感じて不快だったと回答した児童生徒の人数が、全体として45人減少した。

※ 調査結果を踏まえ、各学校においてセクハラ相談員等による聴き取りを行ったところ、教諭によるわいせつ案件が1件確認され、厳正に処分した。

【全体】100人当たり0.12人(0.13人) ※ ( )内は令和元年度、小数点第3位を四捨五入

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※ 各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①高等学校(回答人数224) \*教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数(複数回答)

項目	男子	女子	合計
③ 性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	13	41	54
① 容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	10	23	33
⑦ 不必要に身体に触られ、不快であった。	3	23	26
② 「男のくせに」、「女のくせに」等と言われ、不快であった。	14	10	24
⑤ 性的なことについて質問され、不快であった。	3	9	12
⑧ プライベートな交際を求められ、不快であった。	0	1	1
⑨ その他	18	63	81

②特別支援学校（回答人数 18）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	男子	女子	合計
⑦ 不必要に身体に触られ、不快であった。	3	0	3
③ 性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	1	0	1
⑨ その他	15	10	25

③中学校（回答人数 153）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	男子	女子	合計
⑦ 不必要に身体に触られ、不快であった。	11	50	61
① 容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	3	15	18
③ 性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	6	11	17
② 「男のくせに」、「女のくせに」等と言われ、不快であった。	5	4	9
⑤ 性的なことについて質問され、不快であった。	1	4	5
④ 性的なうわさを流され、不快であった。	0	1	1
⑨ その他	8	37	45

④小学校（回答人数148）＊教職員からセクハラを受け不快だったと回答した件数（複数回答）

項目	男子	女子	合計
① 容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。	30	20	50
⑦ 不必要に身体に触られ、不快であった。	22	27	49
③ 性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	4	10	14
② 「男のくせに」、「女のくせに」等と言われ、不快であった。	4	1	5
④ 性的なうわさを流され、不快であった。	1	2	3
⑨ その他	4	22	26

(3) セクハラと感じ不快だったと回答した件数が多かった項目の推移

セクハラと感じ不快であったと回答した主な項目は、前年度と同じ傾向であった。

- ① 県立高等学校生徒 ＊（ ）内は令和元年度，[ ]は平成30年度。以下、同じ
- ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.06% (0.05%) [0.06%]
  - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.04% (0.03%) [0.04%]
  - ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.03% (0.05%) [0.05%]
- ② 特別支援学校児童生徒
- ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.05% (0.06%) [0.06%]
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.02% (0.04%) [0.06%]
- ③ 中学校生徒
- ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.05% (0.11%) [0.04%]
  - ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.02% (0.03%) [0.01%]
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.02% (0.04%) [0.05%]
- ④ 小学校児童
- ・「容姿等の身体的特徴を話題にされ、不快であった。」 0.02% (0.01%) [0.00%]
  - ・「不必要に身体に触られ、不快であった。」 0.02% (0.02%) [0.01%]
  - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.01% (0.00%) [0.00%]

※ 生徒の回答について内容を調査したところ、授業中の職員の冗談や説明の中での性的な言動や、部活動及び服装頭髪指導等の生徒指導の場面における教職員の対応を不快と感じたものが多かった。

(4) セクハラと捉えた具体的な事柄（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・「男子だから」という理由で男子生徒を無理やり発表させた。
- ・授業で先生が「女らしく」と言ったことが不快だった。
- ・授業中に先生の話している内容が性的で不快なことがあった。
- ・数学の先生の授業で、公式の覚え方がセクハラだと思った。
- ・進路の話をしている最中に、「結婚しそう、しなさそう」という話をされた。
- ・女子トイレに生徒が入っているのに、清掃監督の男性の先生が入っていくのを見た。
- ・このアンケートについて、性別にチェックをつけることが苦痛であった。

## 2 教職員編

### (1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

職員		令和2年度			令和元年度		
年度	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %
県立高等学校	男性	4,878	7	0.14%	5,165	9	0.17%
	女性	2,418	27	1.12%	2,437	55	2.26%
	合計	7,296	34	0.47%	7,602	64	0.84%
県立特別支援学校	男性	1,502	5	0.33%	1,538	9	0.59%
	女性	2,457	16	0.65%	2,418	18	0.74%
	合計	3,959	21	0.53%	3,956	27	0.68%
県立中学校	男性	23	0	0%	26	0	0%
	女性	15	0	0%	12	0	0%
	合計	38	0	0%	38	0	0%
合計		11,293	55	0.49%	11,596	91	0.78%

※ セクハラと感じて不快だったと回答した職員の人数は、36人減少した。

※ 調査結果を踏まえ、各学校においてセクハラ相談員等による聴き取りを行ったところ、深刻な内容はなかった。

### (2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※ 各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

#### ① 県立高等学校 (回答人数 34) \*教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数 (複数回答)

項目	男性	女性	合計
2 容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	5	15	20
4 性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	1	2	3
6 性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	1	2	3
10 不必要に身体に触られ、不快であった。	1	2	3
3 執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	1	0	1
8 執ように交際を迫られ、不快であった。	1	0	1
12 その他	1	7	8

#### ② 県立特別支援学校 (回答人数 21) \*教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の人数 (複数回答)

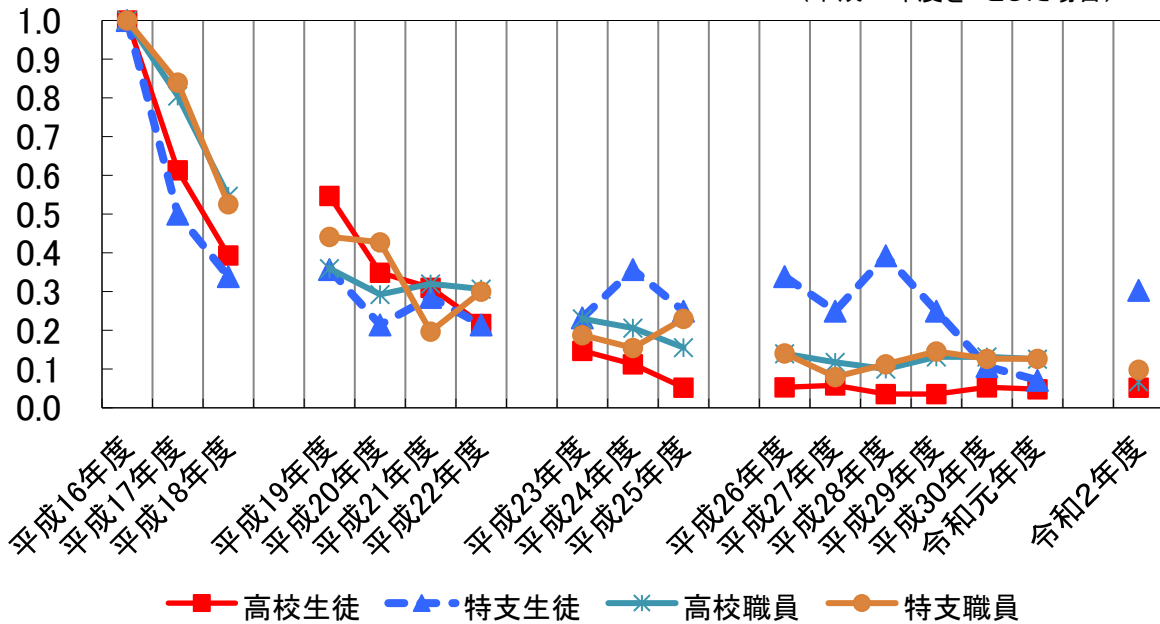
項目	男性	女性	合計
2 容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	1	9	10
4 性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	0	3	3
10 不必要に身体に触られ、不快であった。	1	1	2
6 性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	0	1	1
12 その他	3	7	10



3 セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度を1とした場合）

### 被害者数の増減率

（平成16年度を1とした場合）



4 記名の状況について

※平成18年度調査から アンケートについては、原則記名としている。

児童・生徒	県立高等学校		県立特別支援学校	
	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した生徒の割合	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した児童生徒の割合
令和2年度	97.5%	76.2%	94.2%	82.1%
令和元年度	96.8%	56.0%	92.8%	66.7%
平成30年度	94.8%	50.0%	92.6%	76.5%
平成29年度	96.1%	53.6%	92.5%	64.3%
平成28年度	94.3%	43.9%	92.3%	68.2%

記名、持ち帰りの効果（複数回答）\*回答数 のべ122件（ ）内は令和元年度

・真面目に記入するようになり信頼性が向上した。	48件	37.5%	(60件	34.5%)
・迅速で的確な対応が可能となった。	55件	45.1%	(56件	32.2%)
・保護者と相談でき、安心して回答できる。	16件	13.1%	(0件	0%)
・セクハラの実態把握が難しくなった。	1件	0.8%	(3件	1.7%)
・セクハラへの抑制効果があった。	0件	0%	(0件	0%)
・その他	2件	1.6%	(34件	19.5%)

5 調査結果に基づき、その後実施した対策の概要について

(1) 生徒に対して ※各学校から記述回答されたものを分類

項目	高等学校	特別支援	全体
セクハラを受けたと記入した生徒本人と面談し、事情を聞いた。	51.5%	57.1%	52.4%
無記名の被害生徒に、相談を受けるよう呼びかけた。	16.0%	0%	13.6%
匿名希望と回答内容を鑑み、追跡調査はしなかった。	7.4%	0%	6.3%
無記名のあったクラスの生徒の全員と面談した。	1.2%	0%	1.0%
無記名のあったクラスの見守りを強化した。	4.3%	7.1%	4.7%
追跡の必要のある案件がなかった。	19.6%	35.7%	22.0%

(2) 教職員に対して

- ・全教職員に調査結果を知らせ、セクハラ防止に向け、注意を喚起したり、研修を実施したりしている。
- 【参考】セクハラ実態調査の効果について（各学校で記述回答されたものを集計し、その概要を分類）
- ・全体の94.8%の学校において、セクハラ実態調査は、セクハラ行為に対する抑止力となる、ハラスメントに対する意識が高まる等の面で効果があるとの回答があった。
- ・WEBによる回答の方が良いとの意見があった。
- ・事例研修や風通しの良い職場づくりが、セクハラ防止の上でも効果があるとした意見が多くあった。

6 セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた回答数 \*平成28年度からの設問

●セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた人数について  
 児童生徒においては、小学校の割合が最も高く0.53%（1,321件）であり、令和元年度調査0.31%（778件）から増加している。この他、高等学校は0.19%（162件）、特別支援学校は0.41%（23件）、中学校は0.09%（104件）であった。  
 なお、各学校でセクハラ相談員等が聴き取りを行ったところ、教員から児童生徒に対するセクハラ以外のハラスメントの具体的な相談について、深刻な内容はなかった。

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和2年度	男子	43,307	73	0.17%	3,833	15	0.39%
	女子	43,283	89	0.21%	1,832	8	0.44%
	合計	86,590	162	0.19%	5,665	23	0.41%
令和元年度	男子	44,620	116	0.26%	3,634	16	0.44%
	女子	44,929	158	0.35%	1,745	10	0.57%
	合計	89,549	274	0.31%	5,379	26	0.48%
児童生徒		小学校			中学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和2年度	男子	126,984	660	0.52%	58,828	44	0.07%
	女子	121,701	661	0.54%	55,895	60	0.11%
	合計	248,685	1,321	0.53%	114,723	104	0.09%
令和元年度	男子	126,626	385	0.30%	59,253	127	0.21%
	女子	122,270	393	0.32%	56,401	126	0.22%
	合計	248,896	778	0.31%	115,654	253	0.22%

※ セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた児童生徒総数は1,610人であり、その割合は、100人当たり0.35人であった。令和元年度の1,331人から279人増加した。

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
令和2年度	男性	4,878	38	0.78%	1,502	20	1.33%
	女性	2,418	57	2.36%	2,457	38	1.55%
	合計	7,296	95	1.30%	3,959	58	1.47%
令和元年度	男性	5,165	96	1.86%	1,538	17	1.11%
	女性	2,437	80	3.28%	2,418	39	1.61%
	合計	7,602	176	2.32%	3,956	56	1.42%

- ※ 小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。
- ※ セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた職員総数は153人であり、令和元年度の232人から79人減少した。
- ※ 調査結果を踏まえ、各学校において管理職やセクハラ相談員による聴き取りを行ったところ、職員について深刻な内容はなかった。



## セクハラ以外のハラスメントの具体的な事柄の例（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・当たりの強い教員がいる。言葉遣いが悪い教員がいる。厳しく叱責された。
- ・授業中のあまりにもいきすぎた暴言。トラウマになっている生徒もいる。
- ・バカにしたり、お前じゃ無理などと言われたりした。
- ・学年集会などでかたい床に座されているにもかかわらず、長時間にわたる話をされた。
- ・名前について授業中にいじられた。先生から下の名前で呼び捨てにされ不快だった。
- ・先生が生徒のことを「お前」と呼ぶのを、やめてほしい。
- ・部活動中に、的にされている（目の敵にされている）生徒が、厳しい叱責を受けているの聞き、自分も的になるのではと恐ろしかった。
- ・挨拶をしても、自分だけ返してくれない。
- ・授業時間になっても、特定の生徒に服装や生活指導を続けるのは、正しい行動とは思えない。
- ・教員がマスクをつけないで授業をしている。
- ・風邪で体育を休むとき、担当教諭に「近づかないで」と言われた。
- ・「生徒会役員なのに…」など、プレッシャーをかけられた。
- ・スマホの画面をのぞかれた。

## 体罰実態調査の結果集計について

### 1 調査内容

千葉県及び市立高等学校を除く、すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童生徒及び保護者を対象として、令和2年度中の体罰についてアンケート調査を実施し、新たに体罰の事実を確認した件数及び事案の概要を各県立学校及び各市町村教育委員会から報告する。

### 2 調査結果

実態調査の結果、生徒が体罰として記入したのは0件であった。

なお、平成元年度調査は1件であった。

#### (1) アンケートから確認し、体罰の疑いがあると報告された件数

学校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
令和2年度	0	0	0	0	0
令和元年度	0	0	1	0	1
平成30年度	0	0	1	0	1

#### (2) 発生の場面について

発生の場面	部活動中	授業中	その他	合計
令和2年度	0	0	0	0
令和元年度	1	0	0	1
平成30年度	0	1	0	1

### 3 体罰の事案での令和2年度中の処分の状況について（令和3年3月31日現在）

体罰の事案での処分の状況について（事故発生年度と処分年度は一致しない。）

学校種	免職	停職	減給	戒告	訓告等	合計
小学校	0	0	0	0	1	1
中学校	0	0	0	0	0	0
高等学校	0	0	0	0	0	0
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	1	1

### 4 令和2年度に千葉県教育委員会の実施した体罰根絶の取組例

県初任者研修会や中堅教諭等資質向上研修会、体育主任研修会等において体罰根絶について指導した。

指導の中で、リーフレット「体罰なんかいらない！」（平成26年9月作成）を全参加者に提示し、「体罰根絶宣言」の周知徹底を図った。

問い合わせ  
教育振興部教職員課管理室